



写真①親子 DE 認知症サポーター養成講座受講者の皆さん。認知症への理解の証「オレンジリング」を着用している
 写真②保育所での認知症サポーター養成講座／写真③徘徊高齢者 SOS ネットワーク登録者に配布しているステッカー

認知症になっても 安心して暮らせるまちへ

問 伊奈庁舎介護福祉課 ☎ 58 2111 (内線4305)

認知症は、さまざまな原因により脳の細胞の働きが悪くなったりしたために、記憶障害・判断力の低下・見当識障害※などにより、日常生活に支障がでている状態のことを言います。

全国の65歳以上の高齢者のうち認知症を発症している人は、約15割と推計されています。認知症の前段階である軽度認知障害の高齢者を含めると、高齢者の4人に1人が認知症とその予備軍と言われており、認知症は、誰もが関わる可能性のある身近な病気です。

認知症になっても本人の尊厳が尊重され、安心して暮らせるまちづくりのための市の取り組みをご紹介します。

※見当識障害：時間や自分がいる場所などが正しく認識できない状態。

1. 多くの人に知ってもらおう

■「認知症？伝え隊」ボランティアによる啓発活動

認知症についての正しい知識を普及するため、認知症サポーター養成講座の講師役となるキャリアバン・メイト研修を受講した市民と介護職員が「認知症？伝え隊」を結成し、ボランティアとして活動しています。認知症？伝え隊は、認知症サ

ポーター養成講座の講師役として年間30回以上の講座を行うほか、公共施設などでの啓発活動を行っています。

■認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座は、認知症を正しく知り、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である認知症サポーターを養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して全国規模の活動です。

市では子どもから高齢者まで、あらゆる年代の方に対して講座を行い、平成28年度は778人がこの講座を受講しました。市内にはすでに4300人を超える認知症サポーターが誕生しています。

■出前講座

市域包括支援センターの職員が、高齢者の集まる会場で認知症に関する出前講座を行います。

『認知症の予防』や『認知症が心配な時の対応方法』など、目からうろこのお話が満載です。

2. 地域での見守り

■徘徊高齢者SOSネットワーク

認知症により行方不明となる可能性のある高齢者の情報を事前に登録してもらい、行方不明になった際に早期に見守り、帰宅できるように常総警察署と情報を共有し連携します。また、登録